

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：刑事警察費

事業名 少年非行防止対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 生活安全部 少年課 電話番号：058-271-2424(内3062)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,056 千円 (前年度予算額： 4,448 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,448	1,383	0	0	0	0	0	0	3,065
要求額	4,056	1,263	0	0	0	0	0	0	2,793
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

少年非行は低年齢化がみられ、かつ、再犯率が高水準で推移している現状にある。少年非行防止活動は、警察だけで無く、少年警察ボランティアや地域社会の民間活力その他関係機関との連携が不可欠である。依然としていじめや、児童虐待、有害情報の氾濫のほか、インターネットの普及による新たな非行被害に順応する必要があり、子供を取り巻く環境は厳しく、継続した対策が必要である。

(2) 事業内容

- ・少年補導員による非行防止活動への支援
- ・少年の規範意識向上対策
- ・少年の居場所づくり活動の実施
- ・少年メール相談窓口の開設

(3) 県負担・補助率の考え方

県内での少年補導活動や少年の規範意識の向上、少年相談に要する負担であること、また国庫補助対象事業については、他の対象事業と同様の割合で国庫を充当しており、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	3,200	少年補導員の活動に対する謝金
需用費	469	居場所づくり等活動用消耗品等
役員費	352	少年メール相談窓口用携帯電話使用料、少年補導員用ボランティア保険料、居場所づくり活動用保険料
使用料及び賃貸料	35	居場所づくり活動用会場使用料
合計	4,056	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略
II - 2 - (2)-⑤ 犯罪・交通事故防止の推進

(2) 国・他県の状況

少年の立ち直り支援事業は、全国的に展開している事業である。

(3) 後年度の財政負担

少年補導員活動について継続的に支援を実施していく必要がある。

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 少年非行の抑制を図り、総合的な少年非行防止対策を実施することで、少年の健全育成を推進する

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 ()	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①少年補導員街頭補導出動延べ回数		209	/	/	/	/

○指標を設定することができない場合の理由

少年非行防止に関する事務的経費であり、目標を設定することは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人員等） ・少年補導員と連携した街頭補導活動 ・非行被害防止教室の開催 106校31,168人受講 ・少年非行防止タウンミーティング 6回486人参加 ・参加体験型の少年の居場所づくり活動 13回101人参加
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人員等） ・少年補導員と連携した街頭補導活動 ・非行被害防止教室の開催 182校 58,932人受講 ・少年非行防止タウンミーティング 11回 1,360人参加 ・参加体験型の少年の居場所づくり活動 9回128人参加 ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果 少年に対する規範意識の高揚と立ち直り支援等の再非行防止活動により、非行少年の総量抑制を図ることができた。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	/
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	少年非行防止活動は、警察の力だけでなく、民間活力である少年警察ボランティアや地域社会、関係機関との連携が不可欠であり、必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	県下で800人の少年補導員が街頭補導活動等に従事しており、県民から高い評価を得ている。立ち直り支援事業などは、非行少年の再非行防止につながる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	街頭補導や有害環境の変化、風俗営業への働きかけ等非行防止啓発活動を効果的に推進するとともに、経費の節減にも努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 いじめ、児童虐待、有害情報の氾濫のほか、インターネットの普及による新たな非行被害に順応する必要がある、子供を取り巻く環境は依然として厳しく、継続した取り組みが必要である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 総合的な少年非行防止対策を継続して推進することで、少年非行の総量抑制を図り、少年の健全育成を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	